

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

幼小中の学びの連続性を共に考える／富田林市立 新堂幼稚園

「遊びを通して学ぶ」幼児期。意識して学ぶ学校教育との、学びの連続性はどのように読み取ることができるのでしょうか？小中学校の教師と保育者が、学びの連続性を踏まえて子どもの言葉を考察することで、「科学する心」が育まれている姿が見えてきます。



○ 枝豆を植えよう～枝豆？大豆？テントウムシ！～／5歳児

✿ きっかけ

4歳児の頃に地域の豆腐屋さんに出向き、枝豆が豆腐になることや、豆腐作りの過程をみせてもらい、豆腐が作れるという感覚を知った経験があった。月日は流れ、5歳児に進級し、豆腐屋さんから教えてもらったことは本当か試してみようと、枝豆を育てる。

✿ 場面：枝豆の観察を続けていくと次第に葉に穴があいていることに気付く

「アブラムシが葉っぱ食べてる」
「このままおいといたら、空豆みたいになるで」
(空豆がアブラムシだらけになった経験より)
「テントウムシや！テントウムシに食べてもらおう！！」(A児)
「さすが虫博士！！」
「テントウムシいたら教えてな」
(テントウムシを地道に見つけては枝豆の葉にのせていく)



✿ 育まれたこと

- 自分の育てる植物をより親しむ気持ち
- じっくりと見る力・見たことを表現する力
- 変化変容に気付く力
- 経験を生かす力



✿ 考察

- 4歳児の時に地域の豆腐屋さんで「豆腐が作れる」ことを知った。枝豆を植えよう！じっくり見て観察してみよう！と、保育者からの援助があったが、枝豆を植えた当初より次第にじっくり見る力がつき、表現も豊かになってきている。5歳児の発達において「一つの目当てをもって取り組む面白さをみんなで感じる」体験をしている。
- アブラムシをテントウムシに食べてもらおうと今までの経験を生かす姿や「根っこにも豆ができた」と新たな発見、疑問も生まれ植物の奥深さを、面白さを感じた。日頃、無意識に生活する中で触れている物がどのようにできるのかを栽培を通して体験するで、「どのような物にもできあがるまでの過程がある」と知る新たな発見をし、疑問がうまれて「どうなってるの？」「知りたい」と思う気持ちに繋がって欲しい。今後、大豆との関わりにより体験が豊かになる可能性を考え、豆腐作りなどをしていく予定である。

✿ 小・中学校の先生との意見交流より～学びのつながり～

小学校教科との関連性は…

- 1、2年 生活科 植物に親しむ
- 3年 理科 植物を育てよう 観察しよう

小・中学校の先生方の意見より…

- 日常の遊びからの発見、得た知識が、（テントウムシがアブラムシを食べること）を別の場面で子どもたち自身が生かしていることに意味があると思う。単なる知識で終わらない実感のこもった「知ってる！」が大切である。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」